

■用語解説

■ア行

【IT（アイティー）】

Information Technology（インフォメーション・テクノロジー）の略語。情報技術、コンピューターやデータ通信に関する技術を総称的に表す。

【アウトソーシング】

「外部供給源の活用」が語意。企業が自社の業務を外部に委託することをいう。経営の合理化・効率化や財務体制の改善のために積極的に活用されている経営手法。

【インターネット】

世界的規模のコンピューター通信網のこと。職場、家庭にも急速に普及し、情報化社会の実現に貢献している。

【NPO（エヌピーオー）】

Non Profit Organization（ノン・プロフィット・オルガニゼーション）の略語。ボランティア団体や市民活動団体などの民間非営利団体のこと。利益追求ではなく、特定の社会的使命の実現を目的とした活動を行う団体。

【温泉利用型健康増進施設】

厚生労働省が定める一定の基準を満たし、温泉を利用した健康づくりを図ることができる施設。平成15年6月現在で全国に31施設ある。

■カ行

【外部監査制度】

地方公共団体が、その組織に属さない外部監査人と契約を締結し、監査を受ける制度。平成9年の地方自治法の一部改正により導入された。

【行政評価システム】

行政の政策、施策、事務事業について、

一定の基準、指標をもって評価すること。成果を分析し、政策の質的向上や市民サービスの向上を図ることができる。

【協働】

同じ目的のために、協力してともに働くこと。地域社会における協働とは、住民、団体、企業、行政が、今まで以上に協力関係を強め、まちづくり等を進めること。

【高次都市機能】

教育、医療、福祉、文化、芸術、商業、業務等の分野で、専門性の高いサービスを提供する機能。具体的な施設は、高等教育機関、高度医療機関、劇場、百貨店など。

【コミュニティFM】

市町村など限られた地域を対象に、地域に密着した情報提供を目的としたFM放送。

■サ行

【三位一体改革】

地方財政の改革において「補助金の削減・地方交付税の改革・税源の移譲」を同時に進めようとする考え方。地方財政のスリム化と地方自治体の裁量権拡大を、同時にめざすもの。

【スローライフ】

地元の食材と食文化を大事にする取り組みである「スローフード」の考え方に端を発し、自然尊重、本物志向で豊かな人生を目指す生活設計の考え方。

【製造品出荷額】

事業所が所有する原材料によって製造した製品の年間出荷額のこと。

■タ行

【地域公共施設間ネットワーク】

市民向けの情報の発信、市民からの意

見・生活情報の受信を行うことができる情報提供ネットワークシステムのハード基盤として、また学校での情報教育の基盤として、市役所、小中学校、学習センター、中央図書館、地域学習センター等の間を結ぶ高速ネットワーク網。

【地域子育て支援センター】

子育て家庭の育児不安等についての相談指導、子育てサークル等への支援等を行う、地域の子育て家庭に対する育児支援を目的とする施設。エンゼルプランにより平成7年から事業が開始された少子化対策の一つで、各地域の保育所などが指定されている。

【地産地消】

地元でとれた生産物を地元で消費すること。食料に対する安全志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取り組みとして期待されている。

【地方分権】

権力を中央統治機関に集中させずに、地方の自治団体に広く分散させること。

【電子自治体】

インターネット等の情報通信技術を活用し、住民や事業者に対してより便利で質の高いサービスを提供する自治体。

【都市型サービス業】

情報、娯楽、文化などに関わり、都市部において集積が見られるサービス業。

【都市計画道路】

都市計画法において定められた道路であり、人と車の流れを円滑にし、都市の健全な発展と機能的な都市活動が促進される。

■ナ行

【ニュー・パブリック・マネージメント】

民間企業で活用されている経営理念や手法を、可能な限り公的部門へと適用することにより、公共部門のマネジメントの革新を図ろうとする新しい公共経営の総称。略してNPMともいう。

【農業集落排水施設】

農村の生活環境の快適性向上を目的とした、生活排水処理施設。

【農業算出額】

稲作、野菜栽培、畜産などの農業生産によって得られた農畜産物と、その農畜産物を原料として作られた加工農産物を販売して得られた1年間の利益額のこと。

【ノーマライゼーション】

障がい者に、すべての人がもつ通常的生活を送る権利を可能な限り保障することを目標に社会福祉を進めること。デンマークの知的障がい者福祉の取り組みから生まれた理念で、バンク＝ミケルセンが提唱。

■ハ行

【ハザードマップ】

地震・台風・火山噴火などにより発生が予想される災害現象の進路や範囲、時間などを地図に表したものを。災害予測地図。

【パブリックコメント制度】

市が計画を策定したり、規制の制定・改廃を行おうとする場合に、あらかじめ市の原案を市民に公表し、寄せられた意見を考慮して最終決定するための一連の手続のこと。

【バランスシート】

一定時点における財務状態（資産・負債・資本の状態）を表したもので、貸借対照表

のこと。国や自治体の会計にバランスシートを導入して、過去からの財政運営の結果を把握する取り組みが進められている。

【パートナーシップ】

住民、企業、行政などが、それぞれの立場に応じた役割を分担し、友好的な協力関係を築くこと。

【PFI（ピーエフアイ）】

Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）の略語。民間の資金、経営能力を活用して公共事業を進め、効率的な公共サービス提供を行う事業手法。

【放課後児童クラブ】

保護者が就労などのため、保育が困難になっている家庭の児童を対象に、指導員が保護者に代わり共に遊んだり、学んだりしながら児童の健全育成を図る施設。

【包括的地域ケアシステム】

治療、保健サービス（健康づくり）、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスのすべてを含有するもので、施設ケアと在宅ケアとの連携及び住民参加のもとに生活・ノーマライゼーションを視野に入れた全人的医療（ケア）を目指すシステム。地域とは単なる区域ではなく地域社会を指す。

【報徳】

「人間は勤労に励み、合理的に生産することによって、自然や先祖に報いなければならない」と説いた二宮尊徳の教え。報徳の思想を形成する三つの柱は勤労、分度（感謝）、推譲（奉仕）とされている。

■ヤ行

【ユニバーサル園芸】

心身の健康、心のゆとりや豊かさなどの

生活の質の向上、人間的成長などの増進を目的に行われる農耕・園芸のことで、園芸福祉とも呼ばれる。静岡県では、ユニバーサルデザイン先進県を目指していることから、この園芸福祉をより親しみやすい名称として「ユニバーサル園芸」と呼んでいる。

【ユニバーサルデザイン】

高齢者や身体障がい者だけでなく、誰もが使いやすいものにしようとするデザイン。

【予防医学】

科学的な健康管理を行って病気の要因を取り除き、積極的に病気の予防を行うこと。

■ラ行

【ライフスタイル】

生活様式のことであり、近年個性に応じた生活様式が選択され、多様化が進んでいる。